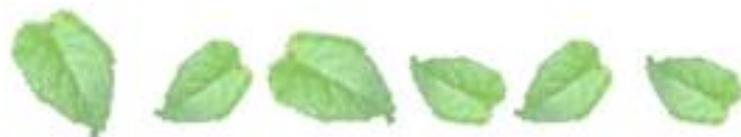


妊娠・出産の問題 臨床編



❖はじめに

【推奨環境】

このレポート上に書かれている URL はクリックできます。できない場合は最新の AdobeReader をダウンロードしてください。(無料)

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep2.html>

【著作権について】

このレポートは著作権法で保護されている著作物です。
下記の点にご注意戴きご利用下さい。

このレポートの著作権は作成者に属します。

著作権者の許可なく、このレポートの全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

このレポートの開封をもって下記の事項に同意したものとみなします。

このレポートは秘匿性が高いものであるため、著作権者の許可なく、この商材の全部又は一部をいかなる手段においても複製、転載、流用、転売等することを禁じます。

著作権等違反の行為を行った時、その他不法行為に該当する行為を行った時は、関係法規に基づき損害賠償請求を行う等、民事・刑事を問わず法的手段による解決を行う場合があります。

このレポートに書かれた情報は、作成時点での著者の見解等です。著者は事前許可を得ずに誤りの訂正、情報の最新化、見解の変更等を行う権利を有します。

このレポートの作成には万全を期しておりますが、万一誤り、不正確な情報等がありましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

このレポートを利用することにより生じたいかなる結果につきましても、著者・パートナー等の業務提携者は、一切の責任を負わないことをご了承願います。

もくじ

1 : 腱鞘炎と出産後のだるさ	4
2 : 胎児が大きくなり背中痛	10
3 : 息がしにくく苦しい	16
4 : 妊婦の背中痛みと、吐き気、頭痛。	20
5 : つわりから歯が浮いて痛み、左顔面から頭、首、肩、 背中が痛む	24
6 : 稽留流産の手術寸前、胎児は元気に育ってた！！ .	31
7 : 妊婦の症状でつらいのがこれ	37
8 : 不妊治療を病院で1年間受けても授からなかった赤ち ゃんが鍼灸による対策で・・・ .	40
9 : 妊娠8カ月で坐骨神経痛がひどく座ってられないのに 受信拒否？	43
10 : 背中痛みとしびれの治療から不妊治療にそし て・・・？	51
11 : 妊婦13週からの便秘改善法.....	54

❖ 1：腱鞘炎と出産後のだるさ

30代 女性

出産1年後に、右手首の腱鞘炎で来院。

この時は、2度の治療で完治。

そして、半年が経ち、今回は、左手首の腱鞘炎での来院となる。

左は使っていないはずなので、原因は不明とのこと。

「おそらく、オムツを外す時に痛めていると思う。」とのこと。

そして、治療を開始しようとした時、

患者「こんなこと聞いていいですか？」

私「いいですよ。何でも聞いてください。」

患者「私、出産してから、全然体調が戻らなくて。」

私「どのような症状が出てますか？」

患者「だるいというか、つらいというか、とにかく活力が
わかないんです。」

ということで、腱鞘炎と合わせて、こちらの治療も行って
いくことになった。

まず、手の方を診てみると、手首にまったく力が入らないようである。

しかし、腱鞘炎とは少し違うような・・・。

腱鞘炎の場合、通常は、局所に少し固さがあるのだが、固さどころか手の重さを支える力もなくなっている。

手を使った記憶がないというが、使いすぎか外傷がなければこうはならないはず。

まあ、原因が分からない時は、身体に聞いていくしかない。

弱いところを強めるか？

強いところを緩めるか？

慎重に手を動かしていくと、肘の近くに小さな固さが散見される。

そこを狙い打つように鍼を刺すと、すぐに手首がしっかりしてきた。

この鍼を刺したままの状態にして、産後の不調の治療へ取りかかる。

全身を細かくチェックしていくと、胃腸と肝臓が弱くなっていることが判明。

これは、食生活に問題がありそうだ。

それぞれの弱さを整えるように、鍼を行う。

手首の方は、何度か微調整を行い、終了。

食生活に関しては、アルコール・コーヒー・生食（刺身・寿司・サラダなど）をしばらく控えるように注意した。

すると、これらは、全て大好物でかなりの量を食しているとのこと。

それでは、なかなか体調が戻らないのもうなずけるだろう。

どれも、身体を冷やすための食材。

産後は、血液を増産するためにも十分に温めなければならない。

従って、このような食生活を行っていると、体調不良にな

るのも仕方ないのである。

着替えを終え、会計をしている時に、手首をグルグル回しているのので、「まだ痛みますか？」と尋ねると、「いや、嘘のように全然痛くないんです。身体も軽くなりました。」と不思議そうにしていた。

何をやっても治らなかったのに、たった一回で症状に変化が出た時、大抵不思議そうにしている姿を目撃する。

これも、鍼灸をやっていると出会える面白さであろう。

❖ 2 : 胎児が大きくなり背中痛

30代 女性

妊娠7ヶ月で、かなりお腹が張ってきたため、姿勢を正そうとしていたら背中が痛くなってきた。

お腹の大きさから、うつ伏せは出来そうもないので、横向きで身体を診ていくことにした。

まず、背中を触った瞬間に、固いと分かるほど張っている。

そして、もっと細かく診てみると、小さく固まっているコリが点在している。

これは、このこっている部分を押しなけば発生しないも

の。

逆に言えば、押してしまったからコリができてしまったのである。

そして、この固さは、相当慢性化していると言っていい代物だ。

元々、筋肉のコリというのは、通常的生活では発生しない。

始めに感じるのは、必ず筋疲労からである。

筋疲労は、疲労物質が溜まっているだけなので、十分に筋肉を伸び縮みさせれば、あっという間に疲労は抜ける。

しかし、マッサージ業界が盛んになってしまった今。

ほとんどの人が、筋疲労の段階で、マッサージを受けてしまう。

物足りない程度のマッサージであれば、それほど問題なく済むのだが、この初めてのマッサージで、しっかり指圧を入れてしまったり、揉み返しとなった場合。

その部分に小さな炎症が起きる。

その炎症が治まると、少しだけ、他の筋肉より強く（固く・太く）なって成長してしまうのだ。

次に、また筋疲労を起こしたときには、この少し強くなった筋肉のところが、気になるようになる。

これは、他の所よりも血液循環が悪くなるからだ。

気になるところは、また押せば楽になると思い、押し
てしま

すると、その場は楽になるが、また炎症が起き、修復
すると強くなり、また気になってしま

これが繰り返されることで、《慢性のコリ》を作っ
てしま

ここまで来てしまうと、筋肉を伸び縮みさせても、あ
まり変化しなくなってしまう、むしろ、そのコリを押し
つぶして破壊しなければ、気持ち良さが伝わらなくなっ
てしま

これでは、行き着くところは、《感覚が麻痺》する
か、誰が押してもまったく効かない《最強のコリ》とな
ってしま

そのため、私は、ゆっくりと時間をかけて、その固まってしまったコリと、本来の筋肉が連動するように鍼灸を行っている。

しかし、今回のケースでは、妊娠中であり、これからさらに、お腹は張ってくる。

当然、「背中痛はひどくなるばかり。」という予想がつくため、仕方なく鍼でそのコリを破壊することにした。

終わった後には、「本当にスッキリしました。」と言われたが、こちらは逆にどんよりとしてしまった。

なぜなら、次回来院する時は、そのコリがさらにひどくなっている可能性があるからだ。

そのため、患者さんには、「つらくなっても絶対押さないでください。押ししてしまったら、もっとひどい症状になりますからね。」と口を酸っぱくするほど言ってみた。

この私の言葉が、伝わってればいいのだが、このようなコリを作るほとんどの人が、その場しのぎとして、肩こりの治療をしてきた人たちである。

そのため、つらくなったらすぐに押ししまい、ひどくなってしまふのが通例なのである。

❖ 3 : 息がしにくく苦しい

30代 女性

妊娠8カ月の女性。

どんどんお腹が大きくなるにつれ、息がしにくくなり、非常に苦しい。

まだ働いているが、息ができないため、もう産休に入りたいぐらい。

病院では、「妊婦にはよくあることで、仕方ない。」と言われてたらしい。

東洋医学的な見解。

妊婦のお腹が張りだしてくると、下半身に荷重がかかってくる。

この荷重に耐えられるだけの筋力を持っていれば何も問題ないが、なければかなり疲労が溜まってしまう。

東洋医学では、下半身＝腎と考えるため。

下半身の疲労＝腎の疲労となる。

腎が疲労を起こすと、下半身がだるくなったり、座っていたりじっとしていると腰がつかくなる。

さらに、耳の異常が出たり、呼吸の異常が出たりすることもあるのだ。

この患者さんも、その考えにのって、腎を整えるように治

療を行うことにした。

妊婦のため、刺激量は最小にとどめる必要があるので、鍱鍼といって、刺さない鍼を使用した。

しかも、足の裏とアキレス腱付近を刺激しただけである。

両脚終わったところで、呼吸の状態を聞いてみると、「楽になってきました。」とのこと。

しかし、今は横になっているため、足への負担はない。

これで、立ってしまえば、筋力のなさで、また疲労が出てしまう。

そこで、脚の一番負担が大きく固さが強い場所へ、円皮針（シールで張っておけるタイプの鍼）を貼り、立ち上がっ

てもらおう。

鍼の違和感と呼吸の感じを確認してもらおうと、どちらも問題なく、かなり楽になったということである。

帰り際にも「本当に、楽になりました。」と、来院時の窒息しそうな顔面蒼白な表情とうって変わって、素晴らしい笑顔を見せてくれた。

このように、西洋医学では、どうする事も出来ない症状が、東洋医学では意外に簡単であることが多い。

まだまだ、どちらかの治療しか受けていなくて、症状が変化なく苦しんでいる人が、たくさんいると思う。

病院ばかり、または治療院ばかりを回るのではなく、たまに東西反対の医学を試してみるのも良いのでは？

❖ 4 : 妊婦の背中痛みと、吐き気、頭痛。

30代 女性

妊娠12週目、つわりで吐き気がひどくあり、日に何度か嘔吐してしまう。

さらに、背中から肩にかけてのこりが強くなり、頭痛もひどく、目を開けているのもしんどい。

脈はしっかりしているので、胎児には問題ないようだ。

(中医学による脈診では、胎児の状態を調べる方法がある。)

脈診

つわりの原因は、恐らく胎児の成長に、身体がついていけないためなのだろう。

夜も吐き気で起きてしまうため、熟睡もなかなかできないとのこと。

背中の状態からは、内臓全般の疲れも伝わってくるため、お灸を行いたかったが、つわりで臭いが全く受け入れられず、気持ち悪くなってしまいうようだ。

そのため、鍼で調整を行っていくことにした。

内臓の機能を活性化し、筋肉の緊張をゆるめ、睡眠を取りやすい状態にしていく。

そして、頭痛の一番の震源地である、右前頭部外側と関係のある、胃経の気の流れを調整し終了とした。

終わった後には、「温かくて眠くなりました。」と、来院時とはうって変わって、朗らかな感じになっていた。

中医学では、特定部位に痛みが出る場合、気の流れが狂っているために起こるととらえる。

そして、気の流れを整えるための技術として、ツボを刺激する鍼灸がある。

ツボは、身体の情報を経路によっていろいろな形となり、サインを出しているところ。

例えば、胃が痛い時に、胃につながっている特定のツボへ、痛みの情報（度合いや状態）が伝わり、その痛みの種類に応じて、固くなったり、盛り上がったり、凹んだり、冷たくなったりと、さまざまな形になって表れるのである。

従って、異常なところが全くない身体では、ツボが現れないということになる。

現に、治療を行っていく過程で、ツボの反応（数）が減っていくと、必ずと言っていいほど、症状も改善されていくのだ。

そして、ツボは、ある通り道で全てがつながっている。

その通り道のことを、東洋医学では「経絡」という。

経絡は、六臓六腑（六臓：肝・心・脾・肺・腎・心包（心臓の膜）、六腑：胆・小腸・胃・大腸・膀胱・三焦（水分のバランス調整を行う））に、それぞれ一本ずつの道がある。

そのため、どの経絡に異常が出ているかが確認できれば、どの臓器に異常が出ているのかがわかる、非常に単純でわかりやすい医学なのである。

❖ 5 : つわりから歯が浮いて痛み、左顔面から頭、首、肩、背中が痛む

30代 女性

妊娠7週目で、つわりがある。

非常につらいつわりを我慢していると、急に左顔面が痛くなった。

それが、

だんだんと頭から首、肩、背中と痛みが回り、かなり痛く眼を開けているのもつらい。

さらに、

歯が浮いてきた感覚で、
こちら痛みがありかなりつらい。

そして、この4～5日は、毎日立ちくらみも出てきた。

脈を診てみると、気が盛んに動いているが、血が足りなくなっていることがわかった。

おそらく、つわりのためにしっかりと食事を取れていなかったのだろう。

案の定、この2週間ぐらいお粥とヨーグルトしか食べれていなかったらしい。

食事を取れていなければ、血を作ることができない。

しかし、胎児は育っていくので、気は盛んに動いてしまう。

気が盛んに動いているところで、PC 作業を行った結果、血がさらに足りなくなり、首の筋肉が固くなり、気だけが頭の中に溢れた状態になってしまったのだ。

まずは、うつ伏せで、消化器系の機能を取り戻し、食事を取れるようにお灸で調整。

そして、首の付け根である後頭部の固さも、お灸でとる。

仰向けで、歯をひき締め、胎児の状態を安定させるようにお灸を行った。

これで、ほとんどの症状が取れ、歯の浮く感じが、うっすらと残っているだけとなる。

自宅でも、お灸ができるように、ツボへ印を付け終了とし

た。

気と血というのは、密接な関係がある。

血は、心臓の働きだけで、全身をくまなく流れていると思
っている人は多いだろう。

いくら、血管の中が真空状態であろうと、身体には、骨や
筋肉、脂肪など血管にとって障害となる物質が、数多く存
在する。

従って、流れやすい血管と、流れにくい血管は、必ず存在
するはず。

しかし、人間の体内では、不思議なことに、全身をほぼ同
じ速度で、同じ血液分量が流れている。

これは、血に気が乗っているからである。

心臓の働きは、全身の状態をそれぞれの場所から神経が脳に伝え、その結果で拍動の強さや速度が決まってくる。

そして、そのパワーを受け継いでいるものが気である。

気は、心臓から押し出された血液と一体になり、必要なパワーを維持しつつ全身くまなく流す力を持っているもの。

(気の作用や働きはこの他にも数多くある。)

従って、気が少なくなれば、血液の流れも弱くなり、気が盛んになれば、血液の流れも力強くなる。

しかし、心臓に送られてきた脳の情報と違う働きを気がしてしまうと、不定愁訴となっていていろいろな症状を現すのだ。

今回の患者さんのケースは、

- 妊娠したことで子宮が広がり、腸に影響が出て、つわりを起こした。
- つわりの影響で、食事が取れず、栄養不足となる。
- 胎児は日々育つために、母体から血液を栄養として受け入れる。
- そのため、母体の血液量が減る。
- 胎児は、もっと栄養がほしいと気だけが騒いでいる。
- PC作業で目を使う。(見るということは、一番血液を必要とする動きである。)
- 頭部方面の血液量が足りなくなり、筋肉の栄養も足りなくなり固くなる。
- 全体的に、血液量が減り、気の量が増えたため、首の固さがある頭部に気が溜まってしまう。
- さらに、肩や背中から頭部へ向かうはずの気も、首の固さで遮られ背部に溜まりパンパンとなる。

このように、考えられる。

ただし、気が盛んと言うことは、胎児は健康に育っているということ。

そこから、さらに栄養が取れなければ、血液量はもっと足りなくなり、胎児の栄養も不足となり、気も弱くなってしまふ。

すなわち、母親の食事量で、胎児は育っていくということ。

これを忘れている母親が多いことに、私は驚いている。

元気な子を産みたければ、食事と睡眠を十分に取ることである。

そうすることで、たくさんの栄養が胎児を元気に育ててくれるのだ。

気と血の関係は東洋医学の基本です。

❖ 6 : 稽留流産の手術寸前、胎児は元気に育ってた！！

30代 女性

先日嬉しい報告があった。

約半年前から不妊に対する施術を当院で開始していた患者さん。

先日の来院時に、

「先生、実はこの前、手術の打ち合わせで、病院に行ったら、「念のために超音波を取っておきましょう。」と言われ、取ってもらったら、手足をグングンバタつかせている胎児が映ったんです。もう、先生も私もビックリしちゃって！

先生が、「まだ流れてないと思うんだけどなあ？」って言うてたことが当たって旦那と二人で「本当に東洋医学ってすごいね！」って言い合ってるんです。」と、矢継ぎ早に喜びの報告をしてくれた。

この流れはどういうことかという、2か月前に妊娠が確認され、4週目ということだった。

施術開始から、約3カ月で妊娠ということになる。

私が行った内容は、鍼灸をその時の体調に合わせて使い分けることで、骨格と脈を妊娠のしやすい状態へ持っていくという方法である。

この時は、ほぼ同時期に当院で妊娠を目指して施術を開始した友人とともに、ほぼ同時期の予定日となる赤ちゃんが

できたことに喜んでいた。

この時も、「本当に東洋医学ってすごいんですね！」と、非常に喜んでいたのを覚えている。

ところが、そのちょうど1ヶ月後、病院の検診で「胎児の大きさが半分以下になっているので、稽留流産でしょう。」

と言われてしまう。

元々、子宮筋腫を2つ持っていることから、婦人科でも妊娠しにくいと言われていたらしいが、ショックを隠せない様子であった。

しかし、その時の当院での施術の時に、脈も身体も、反応は全く妊娠している状態のままであったのだ。

妊娠しているかどうかは、脈に大きく現れるのだが、その他にも、骨盤やかかとの状態でも確認する方法がある。

そのどれもが、妊娠と流産後に変化が現れるもの。

しかし、この時見たこの患者さんの身体からは、流産した形跡が見られなかった。

そのため、私は施術をしながら小言のように、

「まだ、いると思うんだけどなあ？」

「これで、流産ってことはないと思うんだよなあ？」

「おかしいなあ？まだ元気にいると思うんだけどなあ？」

と、ブツブツ言っていた。

今となつては、正解を言っていたので、問題にはならないが、これが、本当に流産であれば、余計な期待を持たせてしまうだけ、失礼なことを言っていたことになる。(危ない！危ない！)

そして、今回、稽留流産の手術の打ち合わせに病院へ行ったところで、胎児を確認。

事なきを得たということである。

しかし、問題は残っている。

恐らく、胎児が半分に見えていたのは、新しくできていた子宮筋腫と見間違えたものであるらしい。

そして、その筋腫の成長速度が異常に速いということである。

胎児の栄養を奪っているのか？母体から取り上げているのか？筋腫が何を栄養源にしているかは分からないが、筋腫が急速に大きくなっていることは確かなようだ。

胎児の居場所がなくなるほど大きくなってしまっただけでは、早めに取り出すしかないだろう。

どうにか、出産まで胎児の成長を邪魔しない程度の大きさにとどまっていたほしいものだ。

❖ 7 : 妊婦の症状でつらいのがこれ

30代 女性

出産まで2カ月に迫った妊婦さん。

最近、一気にお腹が大きくなり、全身が重い感じがして、
少し腰に負担がかかっているような気がする。

さらに、今までつったことなど経験したことのないふくらはぎや、足の指が夜中につってしまい、熟睡ができない。

つった後は、ふくらはぎの張りがずっと抜けず、通勤がしんどい。

お腹が大きいので、うつ伏せにはなれないため、横向きで

背中を診ていくと、やはり腰回りとふくらはぎがパンパンに張っている。

脈はしっかりしているので、整体を行うことにした。

肩の動きを改善し、腰をゆるめ、仙腸関節（出産時に一番活躍する関節）を少し操作する。

仰向けになり、足ツボマッサージを入念に行う。

特に膝の裏と脚の裏の固さが目立ち、疲労もかなり溜まっていた。

今まで、張ってたふくらはぎと腰が軽くなり、素晴らし笑顔で帰って行った。

妊婦は、体重増加に伴い、必ず腰やふくらはぎがつらくなる。

できれば、家に青竹を置いて、毎日踏むようにするとよい。

さらに、この患者さんにも言っているが、脚がつってしまった場合は、つることの多い時間帯に、足裏のど真ん中にある湧泉と、かかとのど真ん中にある失眠というツボへ、温湿布を小さく切ったものか、点温膏を貼っておくとつりにくくなる。

脚が楽になれば、腰も楽になるはずなので、ぜひ試してみてください。

❖ 8 : 不妊治療を病院で 1 年間受けても授
からなかった赤ちゃんが鍼灸による対策
で・・・。

30 代 女性

2 年前に、腰痛、冷え症、手足のしびれ、生理痛などを改善
するために、キュアハウスへ通い出した患者さん。

ほぼ症状が出なくなった 9 カ月後。

実は、この患者さん、子宮頸癌があり、さらに、排卵が全
くないことで、キュアハウスへ通い始める 3 ヶ月ほど前か
ら、ホルモン療法による不妊治療を病院で受けていたとの
こと。

しかし、不妊治療を始めて1年経った今でも、排卵はなく

「もう諦めました。」

という発言があった。

そこで、

「うちで不妊治療やってみますか？」

という私のススメから、鍼灸による不妊治療を開始。

その3カ月後には、妊娠5週目であることが判明。

その後も妊娠8か月目まで、体調管理をキュアハウスで行った。

大きな異常はなく、胃もたれ程度の悩みで 8 か月目まで、
過ごす事が出来た。

あとは、里帰り出産のため、実家へ戻ることになった。

そして、今回久しぶりの来院。

主訴は、6 ヶ月の娘さんの体調チェック。

元気なお子さんで、ほぼ心配はいらぬ状態で、健康その
もの。

ただ、少し太り過ぎかな？

でも、不妊治療がうまくいかず、落ち込んでいた一時期と
比べると、非常に明るくなっていて、見ているこちらが嬉
しくなるほど、幸せそうでした。

鍼灸の偉大さを感じる瞬間でした。

❖ 9 : 妊娠 8 カ月で坐骨神経痛がひどく座 ってられないのに受診拒否？

妊娠 8 カ月で坐骨神経痛がひどく、手当たりしだいに自宅から通える範囲のマッサージ、整体、鍼灸治療院などへ診てもらえるか電話をするが、どこからも断られ、途方に暮れているという 30 代女性。

何とか見てもらわないと出産どころではないという状況で、キュアハウスへ電話をしてきた。

「妊娠 8 ヶ月なんですが、診てもらう事は可能でしょうか？」

「はい、大丈夫ですよ！」

「ええ？坐骨神経痛がひどくて、座ってられないんですが、診てもらえるんですか？」

「はい、大丈夫です。」

「どこに電話かけても、妊婦で 8 カ月というと、断られるんですが、本当に大丈夫なんですか？」

「はい、大丈夫です。」

ということで、来院。

マッサージを 2 度ほど行くと、嘘のように坐骨神経痛の腰からお尻、太ももからふくらはぎ、そして指先までの痛みやしびれがなくなる。

そして、出産予定日 1 週間前に来院した時には、足のむくみもなく、

「この状態なら、安産で行けそうですね！！」

と言って、出産前最後のマッサージを行い終了とした。

そして、今回、出産後 2 ヶ月経ち、久しぶりの来院。

まず、状態を聞くと、

「メチャメチャ調子いいです。」

「先生が言ってたように、超安産で生まれたので、全然苦しまずに済みました。」

「おかげ様で赤ちゃんも元気です。」

「全然痛みもなかったから、出産ぎりぎりまでやりたい事が出来たし、出産の状況を twitter で流す事もできました。」

ということだった。

とりあえず、出産後、骨盤の異常が出ているか確認のため来院したとのこと。

通常、出産後には、骨盤に異常が現れる事が多いが、骨盤にも恥骨にも歪みが出ていない。

唯一、出ている反応としては、腰のむくみである。

そこで今回は、腰を中心にお灸を行い、疲労回復を行った。

腰のむくみの原因には、さまざまな要因が考えられるので、
いろいろお話を伺いながら、お灸をしていく。

すると、腰のむくみは、出産が原因ではなく、赤ちゃんの
抱き方で腰に疲労が溜まっている事がわかった。

そのため、腰のお灸治療後、腰に負担のかからない抱っこ
の仕方を指導し、終了とした。

会計時には、

「先生、次はいつ頃来たら良いですか？」

「どんなペースで通うのがベストなんですか？」

などと聞かれ、

「今回診た感じだと、抱っこの仕方さえ気をつけていれば、何の問題もなさそうなので、問題が出てからでいいですよ。」

と、答えた。

すると、

「よかったあ！」

と、笑顔で帰って行かれた。

なぜ、他の治療院では、この方の受け入れをしなかったのか不思議でしかたない。

当院では、妊娠初期から出産直前・直後、どのタイミング

でも、全く問題なく受け入れています。

当然、医師の管理が必要な状態は別として、自宅で生活できているレベルの妊婦さんに対しては、全く問題なく治療を行えます。

もちろん、妊娠中ですので、胎児や母体の状態を、脈や体表、そして呼吸などで確認しながら行わなければならないのですが・・・。

妊娠中の症状は、薬を使えない分、妊婦は不安や苦しみを、
どんどん疲弊していきます。

そして、その不安や苦しきは、胎児にも伝わってしまいます。

母親を心配し、常に気をかけてくれる子供に成長してくれればいいのですが、体内にいた頃の母親の状態である、不安や苦しみを感じやすい状態で成長してしまう場合もあるわけです。

ということからも、ニコニコの状態で出産までいけると理想的ですよね！

妊婦の受け入れをしてくれる治療院が、どんどん増えてくれる事を祈ってます。

❖ 10 : 背中の痛みとしびれの治療から不妊治療にそして・・・？

30代 女性

背中の痛みとしびれで来院。

この症状は、中学生の頃からあり、まったく取れないとのこと。

背中を診ると、右腰の広範囲に痣がある。

卵巣か腎臓の異常はあるか聞いてみると、特にないが生理痛はひどく、毎回薬を使用している。

頻尿もひどく15分に1回行きたくなることもあるとのこと

と。

しかも、結婚したばかりで、早く子供がほしいということで、背中も大事だが、子宮・卵巣・腎臓の治療をメインに行うこととし、自宅でもお灸をするよう毎回つぼの指示を出すようにした。

背中痛みは、その都度改善していき、子宮点のつぼの反応もよくなってきた。約1年後に「妊娠しました。」との嬉しい報告。

現在、13週目に突入。

脈の状態では、あまり、子宮に栄養が行ってないようで、呼吸数も多い。

これは、胎児が栄養失調になっていて呼吸から栄養を取ろうとしている状態。

小さい頃から、あまり栄養をとってきた経験がなく、どう栄養摂取したらいいか分からないとのこと。

よくお腹が空くはずだから、何か口にして、眠くなったら寝ること。

太りたくないダイエットしようとしてたと告白。

元気な子供を産みたければ、どんどん栄養を取る。

これは、親としての責任だよ。

がんばれお母さん。

❖ 1 1 : 妊婦 1 3 週からの便秘改善法

30代 女性

便秘を今まであまり経験していないが、最近便秘となり来院。

現在、妊娠 1 3 週とのこと。

妊娠すると、体内の血流が今までの流れではなくなり、新たなサイクルを作り出す。

また、食事量にも変化が出てくるため、便秘になるケースは多い。

妊娠中は、鍼灸の反応が非常に良いため、刺激量もツボの

数も少なくてもいい。

この方へは、仰向けで左右の脚に2ヶ所ずつ。

左を上にして横向きになり、腰に3ヶ所お灸を行い、お腹が鳴りだしたところで終了。

妊娠中は、胎児へ栄養を与えるために、通常より血液量が増える。

そのため、ツボに刺激を行うと、すぐに反応が始まることが多い。

喫煙や極度な冷え性を持っている人でも、初めの反応は鈍いが、続けて施術を行っていくと、どんどん反応が良くなっていく。

反応が良くなるにつれ、脈も安定し、胎児の成長も順調になる。

妊娠中は、基本的に足ツボマッサージで血液の流れを良くするだけでも、ほとんどの症状が取れる。

それほど、血液の流れが、妊娠中の体調に影響を及ぼすのである。

従って、妊娠中の人や、妊娠したい人は、あらかじめ筋肉を柔らかくするために、柔軟体操やストレッチを行っておくとよい。

妊娠するとホルモンの関係で、筋肉は柔らかくなるものだが、全身の筋肉が一気に柔らかくなるのではなく、少しずつ柔らかくなっていく。

そのため、身体の固い人は、妊娠初期に身体のあらゆるところに、違和感を感じることもある。

この違和感も意外とつらいので、そうならないためにも、前もって準備をしておこう。

もっと**健康**になるために

もっと詳しい健康情報をご希望の場合には、下記から、
全102ページ、販売価格1,980円

あなたの症状が治らない9つの理由

というレポートを**無料でプレゼント**させていただいています。
このレポートを請求していただいた方は、健康に関する情報が、ご登録のメールアドレスに、毎日届くようになります。
このレポートとメルマガだけでも、十分にあなたの症状を改善するヒントを得られるような内容になっています。
こちらから無料で請求できますので、積極的にこの機会を利用してみてください。

レポート請求はこちらをクリック



QRコードからも請求できます。



作者：キュアハウス鍼灸治療院 院長 中村幸生
メールアドレス：info@curehouse.jp

★共に健康になり幸せな人生を歩むための学びをしていきませんか？：「キュアハウスの健康幸生塾」

<http://curehouse.jp/blog/kouseijuku/>

★どの健康情報とも全く違う視点であなたの症状を取り除く教材がそろっている：「キュアハウス健康情報館」

<http://curehouse.biz/>

★原因不明の症状を徹底的に解明し改善法を手に入れることができるブログ：「原因不明の痛みや病気を改善するたった3つの秘訣」

<http://blog.livedoor.jp/curehouse/>

★病院や治療院に何度通ってもなかなか治らない症状を専門とする鍼灸整体治療院：「キュアハウス鍼灸治療院」

<http://www.curehouse.jp/>



このレポートは、医療に頼らずに、自分自身で症状の原因を見つけ出し、病院の無駄な待ち時間の間に、自ら症状を改善できるような知識と技術をつかみ取っていただくためのヒントを掲載しています。

このレポートにより、あなたの将来における不安が少しでもなくなれば幸いです。

株式会社キュアハウス
キュアハウス鍼灸治療院
院長 中村幸生